

目的

那珂川のアユ資源を持続的に活用するためには、漁獲の動向を把握した上で適正な漁場運営を行う必要がある。そこで今年度も引き続き、那珂川におけるアユの漁獲状況に関する情報を収集した。

材料および方法

友釣りによる漁獲状況 栃木県那珂川漁業協同組合連合会会員の4漁協に対し、調査票150枚を前年度の賦課金納入者数の割合に応じて配布した。各漁協がそれぞれ選定した調査員に対し、2022年6月1日の釣り解禁日から11月30日までの間、釣行日の釣獲地区（本流7地区および4支流の計11区域：図1）および釣獲尾数（釣果なしも含む）の記録を依頼した。無記入の調査票は、出漁日数を0として扱った。なお、回収率は62.0%であった。

投網による漁獲状況 釣りと同様の方法で調査票50枚を配布し、漁獲重量の調査を行った（投網は7月10日から区間毎に順次解禁）。なお、回収率は62.0%であった。

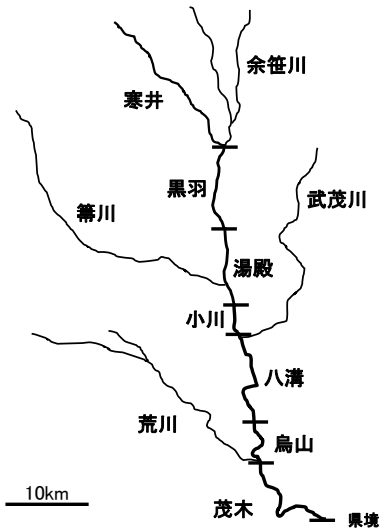


図1 那珂川における釣獲地区の区分

結果および考察

釣れ具合・獲れ具合 漁期を通した釣れ具合は8.1尾/人で、平年（1998年～2021年までの平均）の9.8尾/日より1.7尾/日減少した（図2）。

解禁日の釣れ具合は4.7尾/人で平年（9.5尾/日）より著しく少なく、地区別では、平年を上回ったのは寒井のみであった（図3）。

漁期全体では、本流4地区および余笹川、箒川、武茂川および荒川で前年を上回ったものの、平年よりも低い釣れ具合であった（図4）。

月別釣れ具合を比較すると、6～9月までは平年より釣れ具合が悪かったが、10月は平年並みとなり、11月は平年の3倍となった（図5）。

投網における漁期全体の獲れ具合は2.1kg/人/日で、前年（2.7kg/人/日）及び平年（2.8kg/人/日）よりも少なかった（図2）。

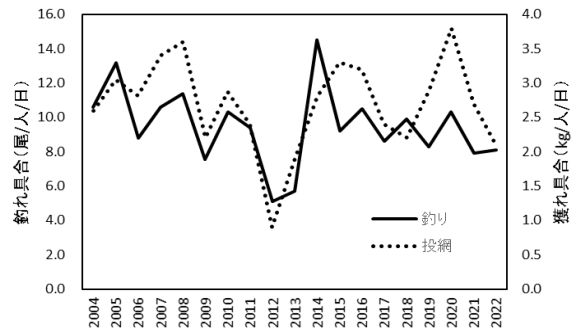


図2 釣れ具合および獲れ具合の推移

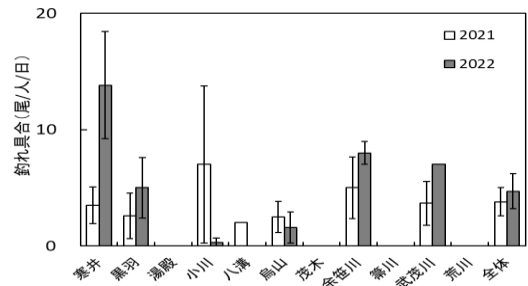


図3 地区別の釣れ具合（解禁日）
（エラーバーは標準偏差を示す）

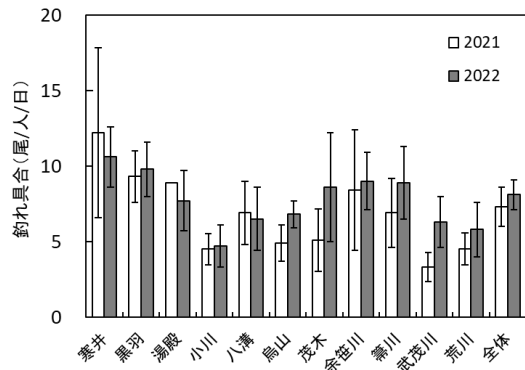


図4 地区別の釣れ具合（漁期全体）
（エラーバーは標準偏差を示す）

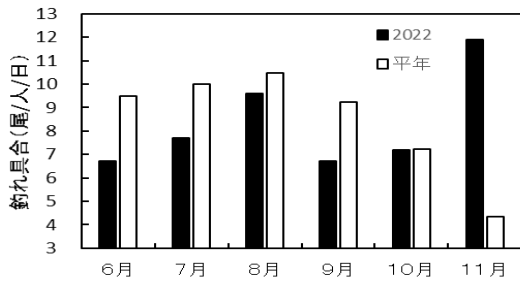


図5 釣れ具合の月別の推移

出漁日数 釣りの出漁日数は10.3日/人で、前年(7.9日/人)の130.4%、平年(19.7日/人)の52.3%となった。一方、投網の出漁日数は9.5日/人で、前年(9.8日/人)から若干減少し、平年(11.8日/人)から2.3日/人下回った(図6)。

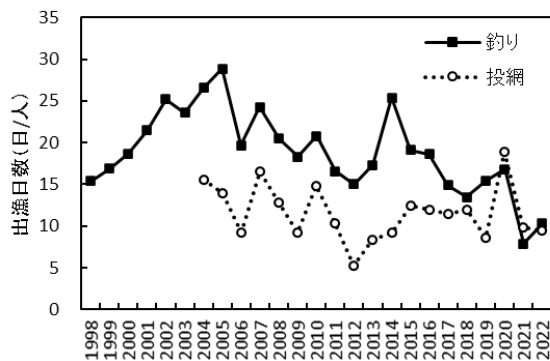


図6 釣りおよび投網の出漁日数の推移

釣獲尾数・漁獲量 釣りによる釣獲尾数は、97.6万尾で前年(63.6万尾)よりも増加したものの、過去10年の平均(176.3万尾)よりも大幅に減少した。また、漁獲量は72.4tで前年(45.2t)から増加したものの、依然として低い水準にあった(図7)。地区別漁獲量は、黒羽地区が最も多く(22.8t)、武茂川地区が最も少なかった(1.9t)が、本流の3地区(寒井、湯殿、小川)以外は前年を上回った(図8)。

投網による漁獲量は30.3tで、前年(39.4t)の76.9%とさらに減少し、過去2番目に少なかった(図7)。地区別では、本流の4地点(湯殿、小川、八溝、茂木)および余笹川、箒川で前年より多く、本流の黒羽、烏山、支流の荒川で減少した(図9)。

出漁者数 釣りの出漁者数は8.7万人で、前年(7.1万人)の122.5%となったものの、調査開始以来2番目に低かった。また、投網の出漁者数は1.5万人で、前年(1.6万人)の93.8%であった(図10)。

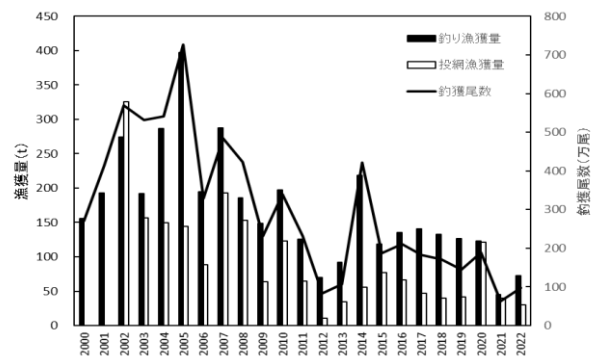


図7 釣り・投網による漁獲量および釣獲尾数の推移

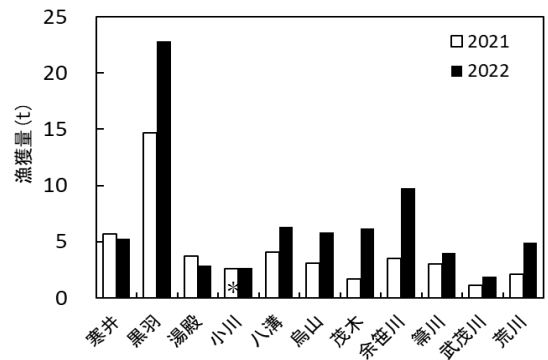


図8 地区別の漁獲量(釣り)

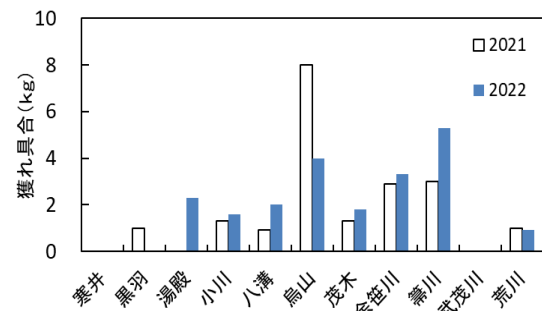


図9 地区別の漁獲量(投網)

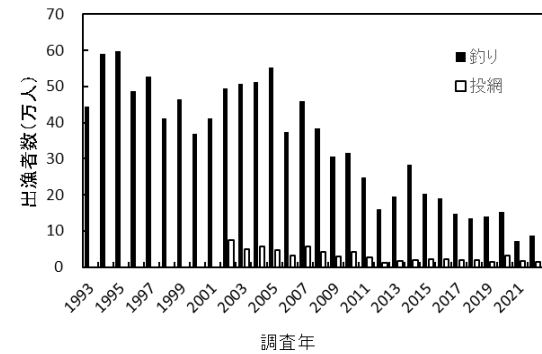


図10 釣りおよび投網出漁者数の推移

(指導環境室)